

下水汚泥肥料の取り組み



市は、下水処理場で発生した下水汚泥を肥料化し、さらに運搬・散布などの支援を行うことで農地利用の促進を図っています。

汚泥肥料を有効活用することにより、産業廃棄物処理費の削減や資源循環型農業を通じた環境負荷の低減など、効率的な下水道事業の運営につながっています。今月は、下水汚泥肥料の取り組みを紹介します。

問合先 下水道課下水道事業係 ☎ 35-4745

汚泥肥料

家庭などから排出された下水は、下水道管を通じて下水処理場に運ばれ、適正に処理が行われた後、河川に放流されます。その処理過程で発生する下水汚泥を肥料化したものが汚泥肥料です。市は、発生するすべての下水汚泥を脱水肥料と乾燥肥料の2種類の汚泥肥料として取り扱っています。

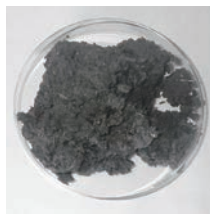
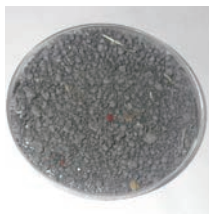
また、年4回の肥料分析と重金属含有量の確認を行い、肥料としての有効性と安全性を確認しています。

脱水肥料

- 水分が多く、含水率が80%程度の粘土状のもの
- 主に小麦、大豆、水稻に使われる
- 土壌改良の効果があり、長く使用することで地力が高まるといわれる

乾燥肥料

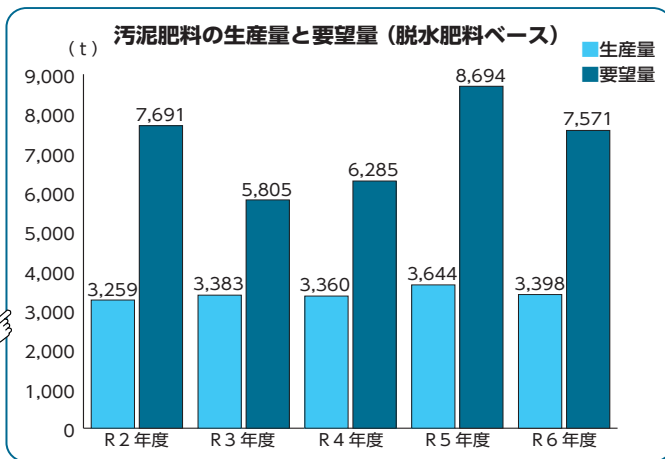
- 脱水肥料を乾燥させ、含水率を20%程度に抑えた顆粒状のもの
- ※設備の老朽化により、令和7年度で取り扱いを終了します。



岩見沢地区汚泥利用組合

汚泥肥料を適正に取り扱うため、市と農業者が協力し、平成6年に岩見沢地区汚泥利用組合を発足しました。汚泥肥料を利用するためには、この組合への加入が必要です。

設立当初は、汚泥肥料のイメージの悪さや効果に対する疑問などで、



汚泥肥料は大変人気で、例年生産量に対して倍以上の要望が！



人口減少に伴う下水道使用料の減少や施設の老朽化による改築・修繕費用の増加など、下水道事業を取り巻く環境は厳しくなっていくことが予想されます。その状況の改善に、下水汚泥肥料の取り組みが役立っています。

取り組みについてもっと知りたい方、汚泥肥料を使ってみたいという農業者は、気軽にお問い合わせください。



思うように普及が進みませんでした。しかし、汚泥肥料を利用したことによる成果や口コミなどで、徐々に利用が拡大し、現在76人（令和7年3月現在）の農業者が組合に所属しています。